

旧入江家住宅

この家は、江戸時代（1603 ～ 1867 年）の重要な商品であった、地元で収穫された塩を扱う多くの事業者の一つであった入江家の住宅として 1785 年に建てられました。この事業は家族に多大な権力と影響力を与え、それは邸宅の規模と壮大な建築に反映されています。

敷地面積は 1,436 平方メートル。家は南北向きに建てられています。メインのリビングエリアには 3 つの部屋があり、催しやその他の集まりなどの場合は、大きな 1 つの部屋として使用できます。右側の小部屋は来客の待合室として機能したと考えられます。高い出入り口は、旗や横断幕を家の中に持ち込めるように設計されています。1828 年には増築が行われ、それはこの家の主人が隠居後に使用していたと考えられています。

邸宅の庭園は枯山水の石庭として設計されました。当時流行していたこのような庭園は禅の伝統から生まれ、岩や砂利を使ってミニチュアの風景を作り出したものです。

入江家の人々がこの家を市に寄贈して以来、保存のため大規模な修復が行われてきました。工事は 2027 年に完了する見込みです。